

速報第3750号 R5.12.5発行 総務課 扱	道議会における質疑・質問及び答弁要旨	5年・4定 一般質問 12月5日	質 問 者	丸山 はるみ 議員 日本共産党 (小樽市)
質 疑 ・ 質 問		答 弁		担 当 課
<p>四 地方交通について (二) 夕鉄バスの路線廃止について 2 栗山高校の生徒の通学について 有鉄バス路線廃止の影響で、栗山高校の生徒が南幌町からの通学の足を失いましたが、道教委として、どう対応したのか伺います。</p> <p>3 栗山高校の生徒における来年度以降の通学方法について 現在、栗山町がデマンドバスを運行していますが、利用している生徒は、来年4月以降の運行に不安を感じています。自治体間を移動する交通手段の確保の責任は、道と道教委が負うべきではありませんか。来年4月以降の交通手段の対応について、どのようにお考えか、知事及び教育長に伺います。</p> <p>五 特別支援教育について (一) 寄宿舎の意義と必要性について 最後に特別支援教育についてです。我が会派はこれまで、特別支援学校寄宿舎の現状について道内調査を行ってきましたが、ある学校では「老朽化した寄宿舎で教育的入舎をするより放課後児童デイサービスを使う方が良い」との発言がありました。老朽化した寄宿舎には教育的意義はないと受け取られかねない発言ですが、教育長も同様のお考えであるのか伺います。 第2回定例会で教育長は、寄宿舎の教育的意義があるとの認識を示しましたが、寄宿舎の意義と必要性とともに、老朽化の課題にどう向き合うのか改めて教育長の見解を伺います。</p>	<p>(教育長) はじめに、地域交通に関し、まず栗山高校の生徒の通学手段の確保についてであります。栗山高校では、南幌町からのバスを利用して通学する生徒が複数名いることを踏まえ、栗山町と通学手段の確保について協議をしてきたところであります。 栗山町では、本年10月から、南幌・栗山間で通学や通勤などに利用できる「栗山町デマンドバス」を実証運行しており、生徒はこうした手段を活用して通学しております。</p> <p>(交通企画監) 最後に、通学手段の確保についてであります。夕鉄バスでは、栗山高校への通学に利用されていたバス路線の運行を本年9月末で廃止したところであります。栗山町では、通学などの移動手段を確保するため、来年3月までの間、栗山町と南幌町などを結ぶデマンドバスの実証運行を行っているところでございます。 栗山町からは、今回の実証運行の利用状況などを踏まえ、来年4月以降の対応を検討すると伺っており、道としては、引き続き、町が設置致しております「地域公共交通会議」に参画するなどして、デマンドバスの運行に係る助言・協力を行うとともに、交通事業者や関係町村など地域の関係者と連携しながら、通学などに必要な移動手段の確保に取り組んでまいります。</p> <p>(教育長) 次に、来年度以降の対応についてであります。道教委では、これまで、生徒の通学状況等を踏まえ、地域などと連携を図りながら、事業者や関係機関等に対し、学校の教育活動の実情を踏まえた路線の開設や増便といった通学手段の確保に関する要請を行うなど、通学対策に取り組んできたところで、来年度以降も、南幌町から栗山高校への通学が可能となるよう、地域などと協議をするとともに、各関係機関に要請をしてみたいと考えております。</p> <p>(教育長) 次に、特別支援教育に関し、まず特別支援学校の寄宿舎についてであります。寄宿舎は、将来の自立と社会参加に向けた基本的な生活習慣や社会性を身につけるとともに、家庭的な雰囲気の中、集団生活を通じて人格形成を図ることができるなど、重要な生活の場としての教育的意義を有するものであり、居住地が学校から遠隔地にあるなどの理由で通学が困難な幼児児童生徒にとって必要な施設であると認識をいたしております。 道教委では、子どもたちの生活基盤となる寄宿舎に関し、安全で安心な環境を確保するため、可能な限り改修等を行っているところでありますが、老朽化等により寄宿舎生活に支障が生じる恐れがある場合などについては、臨時・応急的な対策を早急に検討するなど、引き続き、良好な教育環境の整備に取り組んでまいります。</p>	<p>高校教育課</p> <p>総合政策部 交通政策局 交通企画課</p> <p>高校教育課</p> <p>特別支援教育課</p>		
<p>(二) 寄宿舎の利用減について 寄宿舎利用の減少に伴い、寄宿舎が休止されるのではないかと不安の声が保護者、学校から寄せられています。現状を踏まえ、教育長はどう認識しておられるのか。 特別支援学校の多くは、寄宿舎利用を「通学困難」生徒のみに限定し、保護者にも新規募集の案内を行わないなどの対応が見られます。このような対応が寄宿舎入舎の門戸を狭めており、利用減の大きな要因となっていると考えますが、教育長の見解を伺います。</p>	<p>(教育長) 次に、寄宿舎の利用についてであります。道教委では、一つの学校において、寄宿舎を利用する幼児児童生徒が極端に少ない場合、集団生活の確保や効率的な施設運営等の観点から、同一市町村など、近隣の学校の寄宿舎での受入を検討することとしておりますが、その場合にあっても、幼児児童生徒の状況や保護者の方々の要望などを十分に確認のうえ、慎重に検討しているところであります。 また、寄宿舎への入舎要件など寄宿舎の管理に関する事項は、北海道立特別支援学校学則において校長が定めることとされており、寄宿舎への入舎については、居住地や保護者の方々の要望等を踏まえながら判断をいたしております。</p>	<p>特別支援教育課 高校教育課</p>		

質 疑 ・ 質 問	答 弁	担 当 課
	<p>各学校においては、寄宿舎利用に関する一定のルールの下、幼児児童生徒の障がいの状態や、保護者の方々の登下校の送迎に係る負担など、個々の状況を十分に考慮し、可能な限り、幼児児童生徒や保護者の方々に配慮した対応を行っており、引き続き、丁寧な対応に努めるよう指導助言してまいります。</p>	
<p>(三) 寄宿舎利用の拡大に向けた取り組みについて 寄宿舎を利用したいという潜在的ニーズ把握を行うことと共に、寄宿舎は通学困難生徒のみならず、教育的入舎の意義を認め、利用拡大のための具体的取り組みを推進すべきと考えますが、教育長の見解を伺います。</p>	<p>(教育長) 今後の取組についてであります。各特別支援学校においては、これまでも、入学前の教育相談や各学期の個別懇談等において、寄宿舎の利用や入退舎の意向確認を行うなど、丁寧なニーズ把握に努めてきております。 道教委といたしましては、今後も、通学が困難な幼児児童生徒の利用など施設の必要性や、基本的な生活習慣や社会性、集団生活を通じた人格形成などの教育的意義を十分に考慮をし、各学校において、幼児児童生徒や保護者の方々が安心して寄宿舎生活を送ることができるよう、施設の適切な維持管理や、利用に関する丁寧な説明などについて各学校と連携して取り組んでまいります。</p>	特別支援教育課
<p>(再質問) 五 特別支援教育について (一) 寄宿舎の意義と必要性について 寄宿舎について、教育長は「通学が困難な幼児児童生徒にとって必要な施設」と答弁しましたが、寄宿舎の教育的意義は全ての生徒に保障されるものではありませんか、改めて伺います。</p>	<p>(教育長) まず、特別支援学校の寄宿舎についてであります。道教委といたしましては、基本的な生活習慣や社会性、集団生活を通じた人格形成など寄宿舎の教育的意義を十分考慮するとともに、寄宿舎利用に関する一定のルールの下、幼児児童生徒の障がいの状態や、保護者の方々の登下校の送迎に係る負担など、個々の状況を十分に考慮し、可能な限り、幼児児童生徒や保護者の方々に配慮した対応を講じることが重要と考えております。</p>	特別支援教育課
<p>(二) 潜在的ニーズの把握について 一部の学校では、「寄宿舎は通学困難生徒に限定している」、「入舎案内は行っていない」など、保護者の要望を十分確認しているとは言い難い実態を確認しています。児童生徒・保護者の状態や希望などを丁寧に聞き取るとともに、アンケートや意向確認など潜在的ニーズ把握を行う努力を強めるべきではありませんか。教育長に伺います。</p>	<p>(教育長) 次に、ニーズの把握等についてであります。各特別支援学校においては、これまでも、入学前の教育相談や各学期の個別懇談等において、寄宿舎の利用や入退舎の意向確認を行うなど、丁寧なニーズ把握に努めてきており、今後も、各学校において、幼児児童生徒や保護者の方々が安心して寄宿舎生活を送ることができるよう、本人保護者の方々のニーズ把握や、利用に関する丁寧な説明などについて各学校と連携して取り組んでまいります。</p>	特別支援教育課
<p>(再々質問) (二) 潜在的ニーズの把握について 寄宿舎入舎について、本人や保護者のニーズ把握や利用に関する丁寧な説明を学校と連携して取り組むと答弁いただきました。しかし、初めから門戸を閉ざすなど教育長の答弁とはかけ離れている一部の例を指摘しています。こうした実態を早期に是正するとともに、より丁寧な対応が必要と考えますが、このことについて、改めて教育長の見解を伺います。</p>	<p>(教育長) 特別支援学校の寄宿舎についてであります。道教委といたしましては、各学校において、寄宿舎利用に関する一定のルールのもと、幼児児童生徒の障がいの状態や保護者の方々の登下校の送迎にかかる負担など、個々の状態を十分に考慮をし、可能な限り、幼児児童生徒や保護者の方々に配慮した対応を講じることが重要と考えており、今後も本人や保護者の方々のニーズの把握や利用に関する丁寧な説明などについて、各学校と連携して取り組んでまいります。</p>	特別支援教育課